

# むつごろう通信

17号

2010年

2月26日発行

## 退任の挨拶



沿岸域社会計画学分野  
五明 美智男 客員教授

3年間の就任期間を終了し、2010年3月末をもって退任することとなりました。センターの先生方はじめ皆様に大変お世話になりましたこと、感謝申し上げます。

有明海の干潟生息場の回復・創成・工夫という大きなテーマの中で、「むつごろうのみた有明海」をコンセプトに、有明海沿岸の海岸線や干潟域の比較調査、なぎさ線の内部構造のモニタリングなどを担当させていただきました。着任の挨拶（むつごろう通信12号）では、「企業の技術開発現場の視点で…」と抱負を述べましたが、地域の問題に対する大学の精力的かつ総合的、実践的な取り組みに勉強させていただいたというのが正直な思いです。

振り返れば、私の有明海との接し方は、①有明海と他海域とを比べる、②干潟・海岸線の構造や形態に注目し、微地形などを体系的に工夫する、③底生生物だけでなく干潟・浅瀬に集まる稚仔魚を追う、といった3つであったように思います。「干潟にでる」ときはいつも楽しい時間であり、適度の疲れとおいしい焼酎がいつでも刺激的な議論を約束してくれていたようです。本務先の仕

事ではありましたが在任期間中に韓国の干潟や国内の干潟を数多く見る機会に恵まれたことも、また調査ならびに踏査で有明海を2周することができたのも、単なる偶然ではなかったような気がします。

研究フィールドとしての有明海での貴重な経験を活かしていければと考えている次第です。今後ともよろしくお願いいたします。



東京湾・小櫃川河口干潟



有明海・御興来海岸



韓国・仁川干潟

## 退任の挨拶



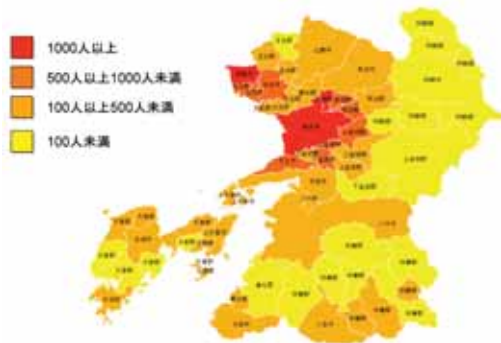
沿岸域社会計画分野  
村野 昭人 客員准教授

早いもので、2007年4月の就任から3年が経過しようとしています。この3年間、陸域の活動が有明海の水質・底質に与える影響を分析することを通じて、地域における環境改善手法について検討することをテーマとして、研究に取り組んでまいりました。具体的には、熊本県の各自治体を対象として、水処理技術を導入した場合の環境効率を分析し比較いたしました。その結果、人口密度が高い都市部と低い山間部では、下水道を導入した際の効率

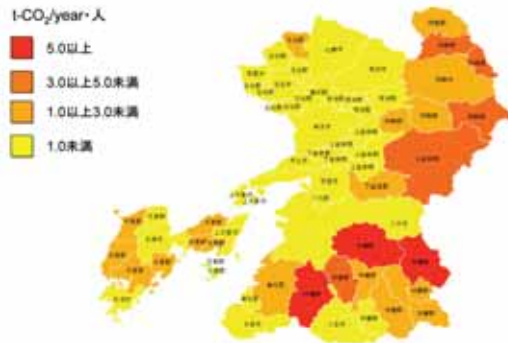
に約10倍もの差が生じることが明らかとなりました。

私の研究はシミュレーションなどの分析が中心となるので、現場と関わるのが少ないのですが、熊本では干潟を見学させていただいたり、海で研究されている方と議論したりする機会をいただき、大きな刺激を受けました。また、熊本との往復に際して、飛行機を利用する時には熊本平野の姿を上空から眺めることが、鉄道を利用する時には新幹線の開通を間近に控えた熊本駅前の変貌を実感することが、いつも楽しみでした。

任期中、センターの先生方を始め多くの方々には大変お世話になりました。この場を借りて、感謝申し上げます。客員准教授としての任期は3月で切れますが、研究は継続していきますので、今後ともよろしくごお願い致します。



熊本県における人口密度分布



下水道由来の一人あたりCO2排出量の分布

## 第8回沿岸域センター講演会が開催されました

2010年1月23日午後、熊本大学工学部百周年記念館において、第8回熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会が開催され、センター教員からの1年間の成果が発表されました（講演要旨は、沿岸域センターHPをご覧ください）。なお、熊本大学附属図書館の学術リポジトリにも登録されています。

### プログラム

- 「スナガニ類の巣穴が小型底生生物の  
微小空間分布に与える影響」  
嶋永 元裕
- 「有明海における1960年代以降の底質変化」  
秋元 和寶

- 「養殖ノリの重金属ストレスに対する応答機構」  
瀧尾 進
- 「アオノリの繁殖におけるリズム現象」  
桑野 和可（長崎大学；学外協力研究者）
- 「沿岸帯における環境保全・自然再生の「工夫」を探る」  
五明 美智男
- 「ハマグリ資源管理技術の開発」  
逸見 泰久
- 「熊本県を対象とした水処理技術システム導入による環境効率の評価」  
村野 昭人
- 「有明・八代海の環境特性と再生への技術開発」  
滝川 清

## 市民公開講座 「有明海・八代海を科学する」および体験実習

研究成果の地域への還元および干潟浅海域に関する環境教育の充実を目的として、一般市民を対象とし公開講座「有明海・八代海を科学する」および体験実習が熊本県水産研究センターとの共催で実施されました。概要は、沿岸域センターのHPに掲載されています。なお、一部講演の資料は、熊本大学附属図書館の学術リポジトリにも登録されています。

### 講義

10月7日：「音で探る有明海の過去、現在、そして未来」  
秋元和實(沿岸域センター)



パレアでの講義



シカメガキの養殖試験  
(熊本県水産研究センター)

10月14日：「熊本県における藻場の現状と藻場が果たす役割」 荒木 希世(熊本県水産研究センター)

10月21日：「有明・八代海の環境特性と再生への技術開発」 滝川 清(沿岸域センター)

10月28日：「カイアシ類の生態学」  
嶋永 元裕(沿岸域センター)

11月 4日：「肥後ハマグリ資源管理とブランド化」  
逸見 泰久(沿岸域センター)

11月11日：「養殖ノリの色落ちと環境ストレス応答」  
瀧尾 進(沿岸域センター)

### 体験実習

10月20日：  
熊本県水産研究センター・  
熊本大学合津マリンステーションでの見学、実習船での調査およびプランクトンの顕微鏡観察



プランクトン採集  
(合津マリンステーション)

## 熊本大学研究拠点 キックオフシンポジウムが開催されました



Ismail Turkan教授



Jae-Sang Hong教授

2009年12月5日(土)午後、チサンホテル熊本において、熊本大学研究拠点キックオフシンポジウム「有明海・八代海の環境と再生に向けて—が、国際シンポジウムとして開催されました。拠点研究B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」で実施されている研究内容を、市民に聞いていただけるように市中のホテルで開催されました。

このため、約70名の参加者の多くが一般市民でした。

谷口功熊本大学学長による開会の挨拶の後、拠点リーダーの滝川清教授(沿岸域環境科学教育研究センター)が研究拠点の目的を、増田龍哉特任助教(熊本大学大学院先端機構)が研究内容を紹介しました。その後、招待研究者である Jae-Sang Hong教授



滝川 清教授



増田 龍哉助教

(Department of Oceanography, Inha University, Korea)が「Korean Tidal Flat: environmental characteristics, biodiversity, threats and conservation needs.」を、Ismail Turkan教授(Department of Biology, Ege University, Turkey)が「Human Impact on Salt Lake (Turkey) and its Biodiversity」を講演しました。逸見泰久教授および滝尾進教授が、それぞれの講演の発表および質問を適時翻訳されたため、会場の一般市民から活発な質問や意見が出されました(学長は英語で直接質疑応答していました)。

シンポジウムの要旨は、沿岸域センターのHP(<http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html>)に掲載されています。

## 「泥の隙間の微小動物 - メイオファウナ」- 2

### 線形動物（線虫類）

「線虫」と聞くと、カイチュウやギョウチュウなどの寄生虫を思い浮かべるかもしれませんが、2万種ほど知られている線虫類（線形動物門）のうち、動物寄生性のものはわずか15%に過ぎません。既知種の大多数（約50%）は海底堆積物中で自由生活をおくっています。デトリタスを食べたり、砂粒表面の細菌を食べたり、さまざまな食性のものが知られている海産線虫類は、通常、多細胞性メイオファウナ全個体数の80%以上を占め、生態系において重要な役割を果たしている消費者です。海域では、有機物消費量全体の1/4を、この線虫類が担っているとされています。先ほど、既知種は約2万種と書きましたが、実際にはもっとたくさんの種が存在すると言われており、「海産自由生活性のものだけで1億種(!)」という数字も提唱されています。

参考文献:「無脊椎動物の多様性と系統」裳華房、「線虫の生態学」東京大学出版会



天草前島の砂質干潟に生息する線虫類。  
スケールバーは0.2mm。見やすくするため染色されているが、実際の体色は無色透明。

## お知らせ

### 1. 平成22（2010）年度・公開実習予定 （合津マリンステーション）

- (1) 「干潟観察会」（2回）・「海蛍観察会」（3回）  
（上天草市と共催で7・8月に実施、日時は未定）。  
どちらの観察会も上天草市松島町で行います。  
詳細は、合津マリンステーション（0969-56-0277）  
または天草ビジターセンター（0969-56-3665）にお問い合わせ下さい。
- (2) 「海の生きものを知る - 天草の海の神秘 -」  
（熊本大学一般公開実習）  
7月17日（土）～18日（日）  
（1泊2日、マリンステーションに宿泊）。  
高校生対象。  
ウミホタルやハクセンシオマネキなどの観察、  
海岸動物の採集と観察、実習船を使ってのプランクトンの採集やイルカの観察を行います。合津マリンステーションに集合（7月17日13時開始、18日14時解散）。募集人員は、25名。
- (3) 「公開臨海実習：行動生態学実習」  
（大学間単位互換実習）  
8月18日（水）～24日（火）  
（6泊7日、合津マリンステーションに宿泊）。  
大学生対象。  
ハクセンシオマネキとヤドカリ類の行動生態学の講義と実習（野外観察、室内実験）を行います。  
単位認定については各大学の事務で確認して下さい。  
募集人員は12名。

なお、合津マリンステーションまでの交通や実習の詳細は、HP（<http://www.geocities.jp/henmiy21/>）で確認できます。

### 2. むつごろう通信への投稿を歓迎します

むつごろう通信にご提供いただいた記事・写真を掲載します。原稿は400字程度の平易な文章で書き、写真には30字以内の説明をつけてください。

秋元 和實 (akimoto@sci.kumamoto-u.ac.jp)、または滝川 清 (taki2328@kumamoto-u.ac.jp) までお送りください。編集で手を加えることもありますが、ご了承ください。

連絡先：〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号  
熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター  
事務連絡先：熊本大学研究・国際部研究支援課  
TEL：096(342)3143 FAX：096(342)3149  
HP：<http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html>